

指導に当たって

指導の際には、個別の教育支援計画、個別の指導計画を活用します。

各教科の目標や内容は、学習指導要領に系統的に示され、指導の根拠が明確です。しかし、自立活動の指導は、それぞれの実態に応じて指導目標や内容が設定されます。そのため、なぜそのような指導が必要か、どのような計画で行うかなどを個別の指導計画の中で明確に示す必要があります。さらに、通級による指導を受ける本人や保護者に対して、面談のときには、個別の指導計画を提示しながら、指導目標や指導内容について説明することも大切になります。

個別の教育支援計画・個別の指導計画

個別の教育支援計画とは、教育、医療、福祉、労働等の関係機関が連携・協力を図り、障害のある児童生徒の生涯にわたる継続的な支援体制を整え、それぞれの年代における児童生徒の望ましい成長を促すため、教育機関が中心となって作成するものです。

個別の指導計画とは、個々の児童生徒の実態に応じて適切な指導を行うために学校で作成されるものです。個別の指導計画は教育課程を具体化し、障害のある児童生徒に一人一人の指導目標、指導内容及び指導方法を明確にして、きめ細やかに指導するために作成するものです。

コラム⑥ 《個別の教育支援計画等の作成と活用》

個別の教育支援計画を保護者と共に作成する際には、本人や保護者の願いを理解することが大切です。“order”でなく“needs”を引き出すために、その子の発達過程の見通しを伝えることが必要だと考えます。今できることをそれぞれの立場で考え、その願いを実現できるようにスモールステップでの取組を心がけていきましょう。また、個別の指導計画には本人や保護者だけでなく通常の学級担任の願いも反映させて、通常の学級での適応力を向上させていきたいものです。



ほとんどの時間を通常の学級で過ごしていることから、実態把握に当たっては通常の学級担任との連携が不可欠です。普段からの情報交換・共有が通級でのよりよい指導につながり、通常の学級での子どもの活動に活かされていきます。さらに、節目ごとのミーティングを各校の年間計画に加えることで、指導目標や指導内容等がよりよいものになり、共通理解も深まります。

通級による指導の時間は、実態に合わせた個別の指導を受けることができる貴重な時間です。アセスメントに基づいた学習計画表を作り、指導の記録を残しておくことがよりよい個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成につながります。



指導要録への記入について

通級による指導を受けている児童生徒については、成長の状況を総合的に捉えるため、指導要録の「総合所見及び指導上参考となる諸事項」の欄に、「通級による指導」を受ける学校名、「通級による指導」の授業時数、指導期間、必要に応じて指導内容や指導の成果等を記入します。なお、指導要録の記入については、在籍している通常の学級担任が通級担当教員が作成する指導の記録に基づいて行い、他の学校において「通級による指導」を受けている場合には、当該学校から通知された指導の記録に基づき記入します。

奈良県立教育研究所 発行
『特別支援学級及び通級指導教室教育課程ハンドブック』より抜粋

1-2 通級担当教員の役割

通級担当教員は、通級が設置された学校の教職員が担当し、校長のリーダーシップの下、校内の教育支援体制の整備に当たって、専門的な見地から助言を行います。

通級による指導を受けている児童生徒に対する指導の実施のほか、校内委員会に参加したり、通常の学級を巡回したりして、通級による指導を受ける必要のある児童生徒に対して、早期からの支援につなげる役割があります。また、指導に当たっては、児童生徒が在籍する通常の学級担任と随時、学習の進捗状況等について情報交換を行うとともに、児童生徒に対して作成される個別の指導計画に通級による指導における指導内容等も記載して、ひいては通級による指導における効果が通常の学級においても波及することを目指します。

そのため、通級担当教員は、通常の学級担任に対して特別支援教育に関する助言を行うとともに、通常の学級の集団指導の場面において、直接、児童生徒を支援する場合があります。

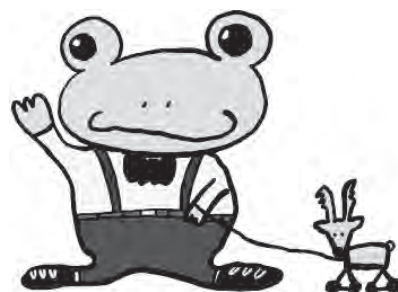
また、通常の学級担任や保護者から相談されたときは、分かりやすく説明していくことが望まれ、特別支援教育コーディネーターと連携して専門機関の情報を提供することも考えられます。自校通級、他校通級、巡回指導と通級による指導には様々な形態がありますが、いずれの場合においても通級はセンター的機能を発揮して通常の学級の支援を担う重要な役割があります。

コラム⑦ 《大切な役割》

子どもにとって“困っていることを相談できて、自分に合った方法を一緒に考えてくれる。そして、それを学級でできるように応援してくれる”存在でありたいと思い、日々よりよい指導・支援を目指して奮闘しています。「通級の先生」は、うまくいかないことがあって困っている子どもたちや保護者にとって、無くてはならない存在です。また、通常の学級担任や特別支援教育コーディネーターの先生方にとっては、気になる子どもについて気軽に相談できる存在でなければなりません。通級を必要とする子どもだけでなく、特別な支援を必要とする子どもも見逃さず、適切な支援につなげていくことも通級担当教員の大切な役割です。

コラム⑧ 《通級担当教員になるには》

通級担当教員ってどんな教員なのでしょう。何か特別な資格を持っているのでしょうか。実は、特に必要な資格はありません。やりがいのある通級による指導を担当したいと考えているのなら、教育研究所をはじめいろいろなところで開催されている研修会に参加することをお勧めします。そして、勤務している学校に通級指導教室が設置された場合や通級指導教室がある学校に転勤したときに、担当を希望してみてください。



1-3 連携の大切さ

通級による指導を進めるに当たっては、在籍校や通常の学級担任、保護者、関係機関との連携が欠かせません。

特別支援教育コーディネーターとの連携

校内における教育支援体制の状況把握に努めましょう。共に通常の学級担任をサポートする立場にあるので、常に気軽に相談し、協力し合う関係を作っておくことが大切です。その際、学校内の支援等を効果的に行うため、特別支援教育コーディネーターとの役割分担を明確にします。

また、他校通級や巡回指導において、他校の児童生徒を指導している場合は、その学校の特別支援教育コーディネーターとの連携を図ったり校内委員会に協力したりすることも望まれます。

コラム⑨ 《特別支援教育コーディネーターとの連携》

校内の特別支援教育の要は、校長が指名する特別支援教育コーディネーターであり、通級担当教員にとっては連携のキーパーソンでもあります。特別支援教育コーディネーターとの会話には、指導や支援に係わる重要な情報が含まれています。特別支援教育コーディネーターとの連携なくしては、通級担当教員は全くの無力であり、何をやっても独り相撲です。連携はフォーマルな場だけでなく、インフォーマルの場でも大切です。職員室の席を隣にしてもらい、職員室から教室に行くときに話しながら一緒に行くなど、積極的に雑談をする機会を作っていきましょう。素晴らしいひらめきは、雑談の中から生まれるものです。

特別支援教育
コーディネーター



嫌なことがあると、飛び出したり隠れたりする子どもがいるので、1年生の担任が困っています。ケース会議で支援について助言をください。

通級担当教員



分かりました。ケース会議の前に、1年生の様子を見に行きます。



特別支援教育
コーディネーター



校内委員会で、通級による指導が必要ではないかという支援の方向性が出ています。保護者も望んでおられます。

通級担当教員



対象となる子どもやその保護者、担任の先生と懇談をもちましょう。教育相談の日程調整をしてください。

コラム⑩ 《通級とは・・・》

通級は、指導・支援を行う教室としてだけでなく、心の安定を図る居場所としての役割も大切です。「通級のおかげで、楽しい思い出がたくさんできて、今までの苦しみが全て消えてなくなった」と言う子どももいます。また、「僕と同じように困っている子を助けてあげて欲しい」と、友だちを連れて来ることもありました。こうして支援の輪が広がり、どの子どもにとっても身近に感じられる教室になればと思っています。

